

# みんなの農業

## 農作業メモ 育苗について

いよいよ令和8年度の稲作がスタートします。近年続いている夏季の高温により休眠が深い種子が見受けられます。そこで、令和8年まき水稻種子の発芽留意点をまとめました。

### ①保管

暖かい場所で保管することで休眠から覚めやすくなります。

**種子は乾燥した暖かい所で保管しましょう。**

### ②塩水選(比重選)

**発芽を均一にするため塩水選**によつて粒のそろつたものを選びます。

塩水選後は、よく水洗いして塩分を取り除いてください。

・比重 1.113  
も ち 1.008

### ③浸種

浸種初期の水温が低いと種子が休眠から覚めずに発芽率が低下します。**寒い時期に浸種を開始する場合、種子消毒時の薬液温度(薬剤吹付種子の場合は浸種初期の水温)15℃を確保**しましょう。

浸種中の水温は10～15℃を保つてください。

「あゆみもち」の浸種は他の品種に比べて長く行い、**積算水温120℃を確保**します。

浸種開始の2日間(薬剤吹付種子の場合は3日間)は水交換を行わず、以降は酸素補給のため2日に1回の目安で水交換を行ってください。

また、種子の上下を入れ替えて浸種むらを防ぎましょう。

### ④催芽

催芽開始の目安は、種子が十分給水してあめいろに透き通り、胚が透き通って見えるようになったときです。

この記事に関するお問い合わせは、宮農指導課(☎059-3693-3620)まで。資料についてはお問い合わせは、最寄りの各宮農(総合)センターまで。



宮農指導課 古川



### ⑥育苗初期の温度

播種後**10日の間に著しい低温(10℃以下)**にあつと、苗のマット強度が著しく低下することが知られていますので、注意してください。

### ◎水やりのポイント

水やりは1日1回、午前中を基本とします。夕方には床土の表面が乾くくらいがベストです。午後や曇天日に水をやると、ハウス内の温度が下がり過ぎてしまいます。

とはいえ、苗が大きくなるにつれ水を欲しがります。乾き具合を見て水やりの回数を増やしましょう。

どうしてもやり過ぎてしまうのが親心とつもの。しかし、水のやり過ぎは根張りを悪くしますので、注意しましょう。

☆育苗作業は各段階でのチェックが必要です。保証票の確認、催芽状況の確認を確実にいきましょう。



▲催芽終了写真

まきの精度が落ちるので注意しましょう。

### ⑤播種

休眠からの覚醒が不十分な粉は、発芽勢が弱く苗立ちが少なくなる場合があります。過度な薄播きを行うと苗立ちが不十分になることがあります。

播種量は育苗箱あたり催芽粉で170～230g(乾粉で140～180g)とし、均一に薄く播きましょう。